

『映像きもの学 2006』— 全 20 卷

秋元 宏美 伊藤 雄己 坂上 航司 芝田 有香
 大黒 悠介 外山 允康 山本 康裕 横江 智子
 (深井 勉ゼミ)

1. 「きもの学」講座の趣旨

きものは日本固有の衣装であり、そのなかには日本ならではの文化が凝縮されています。四季折々に姿を変える豊かな自然に恵まれ、その自然を慈しむ生活様式のなかで培われた我々の感性は「花鳥風月」「侘び寂」「粹と雅」などの言葉に代表される独特の美意識を生み出しました。きものデザインには、まさに、その美意識が随所に表現されています。また、きものを作る過程には日本人の繊細で卓越した職人の心と技が生かされており、きものは世界のどの民族衣装にも劣ることのない誇るべき染織技術によって作り出されています。

きものが民族の衣装として日本の歴史と風土の中で磨かれつつ今日に至ったその歩みを縦軸とし、伝統的な形態の中で創造的に表現される染織文様や色彩を横軸として、繰り広げられるきもの実に多様で奥深い世界について学び、そして、職人さんや芸家をはじめ、きものに関わる多くの人々のそれぞれの思いにも直接触れる機会をもとうとするのがこの講座のねらいです。

— 2006年『きもの学』実施要綱から抜粋—

2. きもの歴史

きものを知るには、歴史を知ることが大切だと思います。私たち日本人の先祖は時代ごとにどのような衣服を着て、今日に至るのか。その過程を簡単にまとめました。

現在のきものをさかのぼると、小袖(こそで)、裃(あこめ)、襖(あお)、などとなり、古代の衣服に近づいていきます。きもの型の衣服が成立したのは、だいたい奈良朝のころといわれています。きものは型の上では小袖と同じで、両者を区別することは難しいです。小袖は平安末期までは男女の下着として着用されていたものがありますが、鎌倉時代になると、しだいに上に着ていた衣服が省略されるようになり、表着として着用されるようになりました。室町時代に入ると、それまで男女ともに着用されていたズボン式の袴(はかま)が省略されるようになり、着流しが一般の風俗となりました。この袴をとり去った着流しの小袖から実質的にはきものと呼ぶことができるようになりました。袴をとって着流しとなった理由としては、室町幕府が政権を強化するためにとった諸政策によるところが大きくなりました。城下町をつくり、武士と農民を切りはなし、武力を強化するとともに武士を消費者階級としました。また、商人を城下町に集めて商業を発展させるなど、武士や商人の定住する町がつくられました。これが生活様式の大きな変化をうながし、座って暮らす生活が一般化するようになり、活動的な袴をすてて、着流し姿が風俗化するようになりました。このようにきものは、くつろぐための服装として発生したといえます。しかし、男子は外出時など、場合に応じては袴をつけて、二部式の衣服を併用したが、女子の衣服は一部式のきものだけになりました。このことは男女の社会的地位の開きの裏づけによるもので、型の上では同じであるにもかかわらず、きものは性別を強調しながら、それぞれに発展していきました。

— 『日本大百科全書』小学館—

3. きものの特徴

日本在来の衣服で、近年来、日本の民族衣装とよばれているものの総称です。明治に西洋の衣装が輸入され、これを洋服とよびました。これに対して従来の日本の衣装を和服とよぶようになりました。一般に和服といえば「きもの」という印象で、和服＝「きもの」の同義語として用いられています。きものは日本で発達した衣服で、広義には日本で古くから用いられてきた様式の衣服すべてを指しますが、狭義には長着、羽織、帯、長襦袢、肌襦袢、裾除け、コート、男子にはさらに袴、禪を含み、ほかに和装具として足袋、履物などが加わります。

きものは直線裁ちですので、洗い張り、仕立て直しを繰り返して行うことができます。汚れたり色あせたもの、また年齢にあわなくなったものなどは、染め直しをして再生させることができます。先染織物などで、染め直しができないものは半纏、ふとんなどへと利用することもできます。こうしてきものの寿命を保たせ、親から子へ、子から孫へと着用の可能性のある限り受け継いでいくことも、その心遣い一つでできるという特長をもっています。

なお、きものは、体型をカバーし美化する特長をもっています。また巻衣式筒型ですから、とくに下半身の保温に適しており、冷えを防ぎます。きものは帯を簡略化すれば着脱が便利であり、病人にも適応し看護もしやすい衣服です。

— 『日本大百科全書』 小学館 —

2006「きもの学」講習内容
8月29日(火)～9月16日(土)

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8/29	8/30	8/31	9/1	9/2
きものの概念① 「日本人の衣生活と きもの」 「日本きものぷらす」 編集・発行人 清田 のり子	きものの概念② 「女性のきもの」 東洋ファッション デザイン学校 東洋きもの専門学校 校長 樹下 林子	きものの概念③ 「男のきもの」 男のきもの新塾 代表 早坂 伊織	きもののできるまで ① 「糸から白生地まで」 芋田機業場 芋田 薫	きもののできるまで ② 「織のきもの」 (株)染織と生活社 取締役編集顧問 富山 弘基 きもののできるまで ③ 「西陣の帯」 泰生織物(株) 専務取締役 酒井 貞治
9/5	9/6	9/7	9/8	9/9
きもののできるまで ④ 「染のきもの」 元・倉敷芸術科学大学 教授 生谷 吉男	きものの変遷 「きもの成立と展開 —平安時代から 桃山江戸時代まで—」 関西学院大学 教授 河上 繁樹	テスト	きものファッション ① 「世界の民族衣装と きもの」 日本和装師会 会長 服飾評論家 市田 ひろみ	染のきもの① 「京友禅の魅力」 (社)日本工芸会 正会員 京都工芸美術作家協会 理事 羽田 登
			きものファッション ② 「ファッションとして のきもの」 デザイナー 小篠 ゆま	染のきもの② 「友禅から 学んだ事」 (有)由水煌人染色工芸 由水 煌人
9/12	9/13	9/14	9/15	9/16
きものと文化① 「狂言の世界」 大蔵流狂言師 茂山 千三郎	織物① 「羅・薄ものの 魅力」 重要無形文化財保持者・ 染織作家 北村 武資	実地研修 ・(株)川島織物 ・西陣織会館 ・織成館と西陣散策 ・羽田美術館 ・友禅美術館 「古代友禅苑」	織物② 「小千谷縮の魅力」 (社)日本工芸会 正会員 小地谷織物同業協同組合 理事長 (株)樋口織工藝社 代表取締役社長 樋口 隆司	きもの最前線③ 「日本の服です」 (株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士
きものと文化② 「和歌の世界」 (財)冷泉家時雨亭文庫 事務局長・常務理事 冷泉 貴実子	きもの最前線① 「きもの文化を 地域社会へ」 日本きものシステム 協同組合理事長 高橋 市郎兵衛		きもの最前線② 「きもの カジュアル文化」 (株)やまと 代表取締役社長 矢嶋 孝敏	きもの学まとめ (株)新装大橋 社長 大橋 英士 京都学園大学 学長 波多野 進 他

2006 「きもの学」 講座内容

きもの概念① 「日本人の衣生活ときもの」

「日本のきものぶらす」 編集・発行人 清田のり子

2005年の夏、クールビズという言葉が誕生しました。資源エネルギーを節約して、本来の夏らしい服を着ようという試みです。

それは結構新しい消費を促しました。明治維新後140年、すっかり定着した洋服は、果たして本当に日本人の着るものとして最適なのでしょうか？ きものの現代性は？ 一緒に考えてみましょう。

きもの概念② 「女性のきもの」

東洋ファッションデザイン専門学校・東洋きもの専門学校 校長 樹下 林子

女性のきものや帯には、いろいろなきもの種類やTPOがあります。また、きものは、どのようにして出来ているのか。どのようにして着るのか。その仕組みを実際に見ながら基本を学びます。

きもの概念③ 「男のきもの」

男のきもの新塾 代表 早坂 伊織

最近いろんなシーンで「男のきもの」を見かけるようになり、関心が高まっています。日本人としての教養の一つでもある「男のきもの」の知識ときものが導く世界の魅力を、様々な視点からやさしく丁寧に説いていきます。

きものの出来るまで① 「糸から白生地まで」

芋田機業場 芋田 薫

白生地の代表的製品である丹後ちりめんは、京都府北部の丹後半島一帯で織られて、この白生地から、華麗多彩な友禅染めなどの「きもの」が花ひらきます。きもの原点である「糸から白生地」について学びます。

きものの出来るまで② 「織のきもの」

(株) 染織と生活社 取締役編集顧問 富山 弘基

日本列島各地には、長年にわたる創り手の伝統的技術・技法の継承と試行錯誤を経て、織物が伝承され今日に至っています。「伝統的工芸品」指定染織品の中から「織のきもの」を学びます。

きもののできるまで③ 「西陣の帯」

泰生織物(株) 専務取締役 酒井 貞治

西陣織は、20人余りの頭脳と技が集まって「分業制」によって創り出されます。その工房のあらましと、特に帯の文様がどのように生まれ、帯に織り込まれていくのか、その流れを学びます。

きもののできるまで④ 「染のきもの」

倉敷芸術科学大学 元・教授 生谷 吉男

華麗な「染のきもの」は、きもの代表格として時代と共に発展を遂げてきました。やさしい染色の仕組みから、様々な染色の技法とその特徴、また仕上げ加工や染色の強さ等について学びます。

きものの変遷 「きものの成立と展開—平安時代から桃山江戸時代まで—」

関西学院大学教授 河上 繁樹

きものの源流は、平安時代の公家の下着と言われます。以後中世を通じて、下着であった「小袖」が表着として着られるようになり、これにともない様々な技法とデザインを生み出した「きもの変遷」を学びます。

きものファッション① 「世界の民族衣装ときもの」

日本和装師会会長・服飾評論家 市田ひろみ

世界各地には様々な民族衣装があります。ライフワークとして100カ国以上を自ら歩き調査・収集・研究を始めて30年以上になります。世界各国の民族衣装と生活や文化との関わりから、日本のきものを探ります。

きものファッション② 「ファッションとしてのきもの」

デザイナー 小篠 ゆま

きものには、伝統文化をベースにしつつも常に新しいデザインや技術を取り入れ、融合させてきた歴史があります。世界のファッションから見たきもの魅力について、デザイナーの視点から探ります。

染きもの① 「京友禅の魅力」

(社)日本工芸会 正会員 京都工芸美術作家協会 理事 羽田 登

京友禅の特徴と素晴らしさは、衣裳の範疇を越え、京都の歴史・お茶・お花・伝統芸能や更には食文化等と深い関わりを持っています。これら京都の生活文化についてふれながら作品の展覧を通じて「京友禅の魅力」を語ります。

染きもの② 「友禅から学んだ事」

(有)由水煌人染色工芸 由水 煌人

友禅の物作りの心を体験談に基づいて話を進めていきます。修行時代、先輩達から感銘を受けた事。お茶・日本画・水墨画・茶花等稽古事から学んだ事を織り交ぜながら友禅(加賀)を語ります。

きものと文化① 「狂言の世界」

大蔵流狂言師 茂山千三郎

狂言は、能の幽玄の世界に対して、多様な笑いの世界を創り出す「笑いの芸術」といわれます。狂言の歴史と演目・装束や文様を紹介しながら、所作による実演も交えて解説します。

きものと文化② 「和歌の世界」

財団法人冷泉家時雨亭文庫 事務局長・常務理事 冷泉貴実子

冷泉家は歌聖と呼ばれた藤原俊成・定家を祖とし、和歌の家として歌道を今に伝えています。冷泉家の歌道の中にある日本の四季の美と現在まで続く年中行事を、古今和歌集や新古今和歌集の和歌から見ながら日本の美意識を探ります。

織物① 「羅・薄ものの魅力」

重要無形文化財保持者・染織作家 北村 武資

正倉院御物の中に見られる「羅」は、中国の古い遺跡の副葬品から多く発見されますが、四川省長沙で約2千年前の遺跡から発掘された「羅」は取り分け貴重な織物です。これをどのようにして織ったのか。

経糸がお互いに絡み合ったレースのような織物“蟬の羽根”あるいは“天の羽衣”ともいわれる薄衣の魅力に迫ります。

きもの最前線① 「きもの文化を地域社会へ」

日本きものシステム協同組合 理事長 呉服のたかはし屋・笑屋 九代目 高橋市郎兵衛
消費者の心に響くサービスを追及してきた小売業の立場から「きもの」がどれほど楽しいものか、消費者に伝えたい「きもの魅力」や「きもの文化」について語ります。

織物② 「小千谷縮の魅力」

(社)日本工芸会 正会員
小地谷織物同業協同組合 理事長 (株)樋口織工藝社 代表取締役社長 樋口 隆司
小千谷縮は、江戸時代、徳川将軍家並びに大名諸侯が江戸城登城時の正式な衣服として名声を得、そして今、地球温暖化の時代の夏の衣服として、クールビズに最適な織物と言われています。「小千谷縮」とはどのようなものか、「その魅力」に迫ります。

きもの最前線③ 「きものカジュアル文化」

(株)やまと 代表取締役社長 矢嶋 孝敏
きものには、「訪問着のようなフォーマル的なものと、紬のようなカジュアル的なものがある」と言われています。しかし、コーディネートとスタイリング、つまり「着方」によって同じきものが、フォーマルにも、カジュアルにも楽しめることが、きものの特徴であることを「焼酎と日本酒」と対比させながら解説します。

きもの最前線③ 「日本の服です」

(株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士
ファッションとしてのきもの、モードとしてのきものをコンセプトに、撫松庵(ぶしょうあん)を発表し、その後、きものリサイクルショップ「ながもち屋」を始める等、常に新しい時代の流れを創り人気を博しています。現代人の視点からきものファッションとモードについて考察していきます。

きもの学まとめ

(株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士・京都学園大学 学長 波多野 進 他
キーノートスピーチできもの学講座の総括を行い、ゲストによる自由な語りあいとともに、「きもの／その未来」を予測します。

きもの学の中継スタッフ



中継時のカメラマン



映像を切り替えるスイッチャー



講義風景

〈「きもの学」を撮影するにあたって〉

きもの学の撮影をすることになり、順調に準備も進み、特に問題もなく撮影できました。昨年は浴衣を着て撮影をしましたが、今年は動きやすさ重視で、私服で頑張りました。ファッションショーも行われ、和装の着こなしの大変さが理解できました。

中継・録画スタッフメンバー

2003c003	秋元 宏美	2003c021	伊藤 雄己
2003c069	坂上 航司	2003c073	芝田 有香
2003c096	大黒 悠介	2003c100	外山 充康
2003c155	山本 康裕	2003c156	横江 智子

〈制作スケジュール〉

中継撮影

2006年8月29日(火)～9月7日(木) 基礎講座
 キャンパスプラザ京都4階 第2講議室

2006年9月14日(木) 実地研修
 (株)川島織物・西陣織会館・織成館と西陣散策・羽田美術館・友禅美術館「古代友禅苑」

2006年9月8日(金)～9月16日(土) 発展講座
 キャンパスプラザ京都4階 第2講議室

編集作業～完成

2006年9月～2007年1月

朋文館2階コンピュータ教室にて編集、1階マルチスタジオにてテロップ作成、ミックスダウン、
 資料収集、キャプション原稿作成、作品完成

〈カメラ及びマイクロフォンの配置とその役割〉

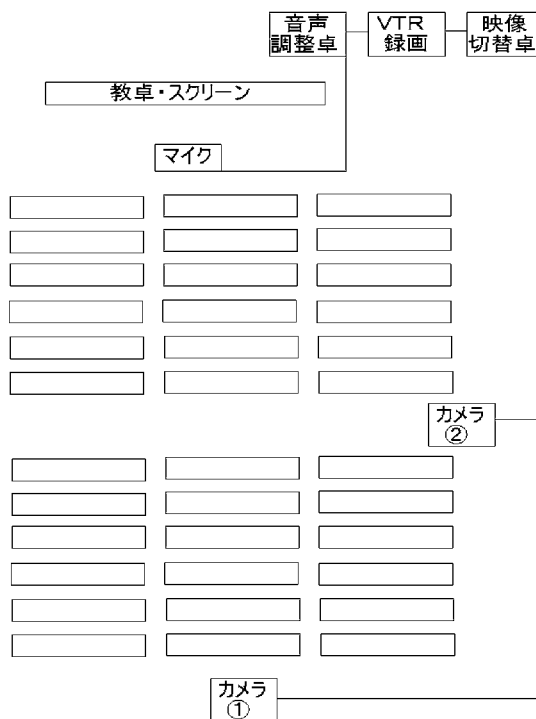
カメラ①…会場全体、講師、
 スクリーンの撮影

カメラ②…講師、資料、受講生の撮影

ミキサー…音量調節、講師マイク

P D……………撮影指示

S W……………映像切り替え



作品概要

1. きもの概念①

「日本のきものプラス」編集・発行人 清田のり子

「日本人の衣生活ときもの」



2005年の夏、クールビズという言葉が誕生しました。資源エネルギーを節約して、本来の夏らしい服を着ようという試みです。それは結構新しい消費を促しました。明治維新後140年、すっかり定着した洋服は果たして本当に日本人の着るものとして、最適なのでしょうか？ きもの現代性は？ 一緒に考えてみましょう。

2. きもの概念②

東洋ファッションデザイン専門学校／東洋きもの専門学校 校長 樹下 林子

「女性のきもの」



日本の歴史と風土の中で、育まれた民族衣装としてのきもについて、各々きもの・帯・袴・小物足袋・履物など標準的なコーディネートをみながら学びます。ファッションという時代にマッチしたフォーマルきものからカジュアルきものまで新しい女性のきものを紹介します。

3. きもの概念③

男のきもの新塾 代表 早坂 伊織

「男のきもの」



最近いろいろなシーンで「男のきもの」を見かけるようになり、関心が高まっています。日本人としての教養の一つでもある「男のきもの」の知識ときものが導く世界の魅力を、様々な視点からやさしく丁寧に説いていきます。

4. きもののできるまで①

芋田機業場 芋田 薫

「糸から白生地まで」



白生地の代表的製品である丹後ちりめんは、京都府北部の丹後半島一帯で織られていて、この白生地から、華麗多彩な友禅染めなどの「きもの」が花ひらきます。きもの原点である「糸から白生地」について学びます。

5. きもののできるまで②

(株) 染織と生活社 取締役編集顧問 富山 弘基

「織のきもの」



日本列島各地には、長年にわたる創り手の伝統的技術・技法の継承と試行錯誤を経て、織物が伝承され今日に至っています。「伝統的工芸品」指定染織品の中から「織のきもの」を学びます。

6. きもののできるまで③

泰生織物(株) 専務取締役 酒井 貞治

「西陣の帯」



西陣織は、20人余りの頭脳と技が集まって「分業制」によって創り出されます。その工房のあらまじと、特に帯の文様がどのように生まれ、帯に織り込まれていくのか、その流れを学びます。

7. きもののできるまで④

元・倉敷芸術科学大学 教授 生谷 吉男

「染のきもの」



きものを消費する立場からやさしい染色の仕組み、様々な染色の技法とその特徴、また仕上げ加工や染色堅牢度などについて学びます。

8. きものの変遷

関西学院大学教授 河上 繁樹

「きものの成立と展開」—平安時代から桃山江戸時代まで—



きものの源流は、平安時代の公家の下着と言われます。以後中世を通じて、下着であった「小袖」が表着として着られるようになり、これにともない様々な技法とデザインを生み出した「きもの変遷」を学びます。

9. きものファッション①

日本和装師会会長／服飾評論家 市田ひろみ

「世界の民族衣装ときもの」



世界各地には様々な民族衣装があります。ライフワークとして100カ国以上を自ら歩き調査・収集・研究を始めて30年以上になります。世界各国の民族衣装と生活や文化との関わりから、日本のきものを探ります。

10. きものファッション②

デザイナー 小篠 ゆま

「ファッションとしてのきもの」



きものには、伝統文化をベースにしつつも常に新しいデザインや技術を取り入れ、融合させていた歴史があります。世界のファッションから見たきもの魅力について、デザイナーの視点から探ります。

11. 染きもの①

(社) 日本工芸会 正会員／京都工芸美術作家協会 理事 羽田 登

「京友禅の魅力」



京友禅の特徴と素晴らしさは、衣裳の範疇を越え、京都の歴史・お茶・お花・伝統芸能や更には食文化等と深い関わりを持っています。これら京都の生活文化についてふれながら作品の展覧を通じて「京友禅の魅力」を語ります。

12. 染きもの②

(有) 由水煌人染色工芸 由水煌人

「友禅から学んだ事」



友禅の物作りの心を体験談に基づいて話を進めていきます。修業時代、先輩達から感銘を受けた事。お茶・日本画・水墨画・茶花等稽古事から学んだ事を織り交ぜながら友禅（加賀）を語ります。

13. きものと文化①

大蔵流狂言師 茂山千三郎

「狂言の世界」



狂言は、能の幽玄の世界に対して、多様な笑いと世界を創り出す「笑いの芸術」と言われます。狂言の歴史と演目・装束や文様を紹介しながら、所作による実演も交えて解説します。

14. きものと文化②

財団法人冷泉家時雨亭文庫 事務局長・常任理事 冷泉貴実子

「和歌の世界」



冷泉家は歌聖と呼ばれた藤原俊成・定家を祖とし、和歌の家として歌道を今に伝えています。冷泉家の歌道の中にある日本の四季の美と現在まで続く年中行事を、古今和歌集や新古今和歌集の和歌から見ながら日本の美意識を探ります。

15. 織物①

重要無形文化財保持者・染織作家 北村 武資

「羅・薄ものの魅力」



正倉院御物の中に見られる「羅」は、中国の古い遺跡の副葬品から多く発見されますが、四川省長沙で約2千年前の遺跡から発掘された「羅」は取り分け貴重な織物です。これをどのようにして織ったのか。経糸がお互いに絡み合ったレースのような織物“蟬の羽根”あるいは“天の羽衣”ともいわれる薄衣の魅力に迫ります。

16. きもの最前線①

日本きものシステム協同組合 理事長／呉服のたかはし屋・笑屋 九代目 高橋市郎兵衛
「きもの文化を地域へ」



消費者の心に響くサービスを追及してきた小売業の立場から、「きもの」がどれほど楽しいものか、消費者に伝えたい「きもの魅力」や「きもの文化」について語ります。

17. 織物②

(社) 日本工芸会 正会員／小千谷織物同業協同組合 理事長
(株) 樋口織工藝社 代表取締役社長 樋口 隆司

「小千谷縮の魅力」一星に願いを—



小千谷縮布は、江戸時代、徳川将軍並びに大名諸侯が江戸城登城時の正式な衣服として名声を得、そして今、地球温暖化の時代の夏の衣服として、クールビズに最適な織物と言われています。しかし震災で被災し、今後の継続が困難な時を迎えています。

18. きもの最前線②

(株) やまと 代表取締役社長 矢嶋 孝敏

「きものカジュアル文化」



きものには、「訪問着のようなフォーマルなものと、紬のようなカジュアルなものがある。」といわれています
しかし、コーディネートとスタイリング、つまり「着方」によって同じきものが、フォーマルにも、カジュアルにも楽しめることがきものの特徴であることを「焼酎と日本酒」と対比させながら解説します。

19. きもの最前線③

(株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士

「日本の服です」



ファッションとしてのきもの、モードとしてのきものをコンセプトに、撫松庵（ぶしょうあん）を発表し、その後、きものリサイクルショップ「ながもち屋」を始める等、新しい時代の流れを創り人気を博しています。現代人の視点からきものファッションとモードについて考察します。

20. きもの学まとめ

(株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士
京都学園大学 学長 波多野 進 他



キーノートスピーチできもの学講座の総括を行い、ゲストによる自由な語りあいとともに、「きもの／その未来」を予測します。

日本きもの学会規約

《名称》

日本きもの学会 (The Japan Kimono Association) と名称されています。

日本きもの学会の事務所は京都市内に設置されています。

《目的》

日本きもの学会は日本固有の衣装である、「きもの」に関する総合的で学際的な学術研究の進展をはかると共に、全員相互間及び関連諸機関との交流の場を提供し、きもの文化の伝承と発展に貢献することを目的としています。

《会員の種別》

日本きもの学会の会員は

- 1 正会員は、きもの及び関連分野において専門の学識または経験を有するもので、日本きもの学会の目的に賛同して入会した個人。
- 2 準会員は、日本きもの学会の目的に賛同し、日本きもの学会に賛同して入会した個人。
- 3 賛助会員は、日本きもの学会の目的に賛同し、日本きもの学会の事業を後援する法人、または、これに準ずる団体及び個人。
- 4 学生会員は、大学等に在籍する学生で、日本きもの学会の目的に賛同して入会した個人。
- 5 名誉会員は、日本きもの学会の対象とする領域において特に功績があり、理事会の決議を経て推薦され、総会で承認された個人。

終わりに

「きもの学」は、本年で5年目を迎え、さらに今年は「日本きもの学会」設立という記念すべき年となりました。

今回は、8人という大人数で参加させていただきました。しかし、複雑で、高度な技術力を必要とする中継機材は、例年と変わらず大きな問題となりました。この問題を克服すべくゼミ内でのリハーサルだけでなく、自ら機材の使用法を確認することによって撮影期間中特に大きな問題もなく、スムーズに行うことができました。

講義中には、事前に打ち合わせをしていたにも関わらず、突然のアクシデントに見舞われることもありましたが、1時間半という時間の中では、良い緊張感があり、ゼミで培ったチームワークで乗り切ることができました。

また、ディレクター・カメラマン・スイッチャー・ミキサーといった各役割をそれぞれが担当することにより、個々に責任感や他の担当の事をお互いに考えられるようになりました。講義を中継するということは初めてで不慣れなところが多々あり、自分たちの事をきっちりやっていくのが精一杯でしたが、反面講義を通じて、きもの歴史や魅力を再認識することが出来ました。更にきものについて関わっている人々の思いや願い、また現代におけるきものファッションとしての魅力、美しさを肌で体感することが出来ました。

「きもの学」を通じて、チームワークの大切さ、成功できたことへの喜び、その喜びを得るまでの準備の大変さ、そして映像制作の難しさや楽しさを身をもって知ることが出来ました。

謝辞

この「映像きもの学」制作にあたり、本学経済学部の大西辰彦教授をはじめ、社団法人全日本きもの振興会ときもの学講師の先生方、大学コンソーシアム京都の関係各位にご指導、ご協力いただいたことに感謝と御礼を申し上げます。

引用・参考文献

藤井健三 市田ひろみ 2006年 『きもの基本』アシェット婦人画報社